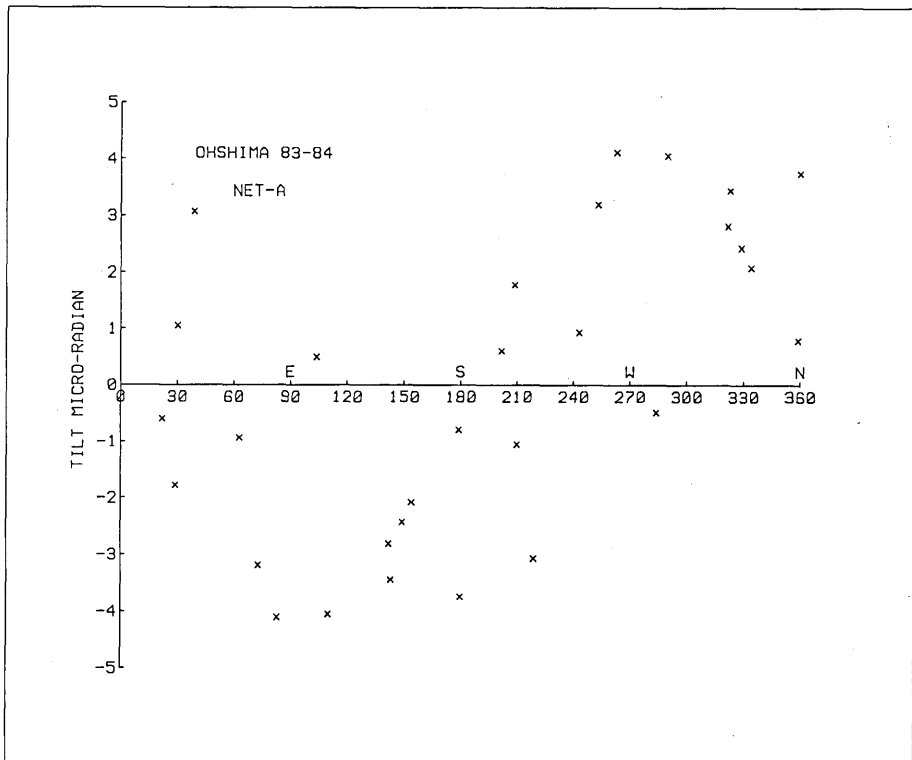


伊豆大島火山のドライティルト観測1984*

地質調査所**

地質調査所では伊豆大島火山の活動にともなう地殻変動を検出することを目的とし、島内の3ヶ所に短距離水準網を設置し、繰返し観測を行っている。1983年1月までの結果はすでに本会で報告したが¹⁾、今回は1984年1月の観測結果と、前回報告した結果を再解析したのでその結果を報告する。

第1図は観測網A(元町長根浜公園)における1983年1月から1984年1月の間の方向別傾斜を示した図である。このうちある特定の水準点(この場合A2号点)に係るデータを除くと第2図のように方向別傾斜はサインカーブに良く乗り、最大傾斜方向とその値が求められる(この場合 279° , $4.04 \mu\text{rad.}$)。観測網B(御神火茶屋東南東約0.6 km), 観測網C(剣が峰北北東約1.1 km)についても同様の解析を行った。さらに前回報告した1982年1月~1983年1月の観測置についても同様の方法により再解析を



第1図 方向別傾斜(観測網A, 1983年1月~1984年1月)。

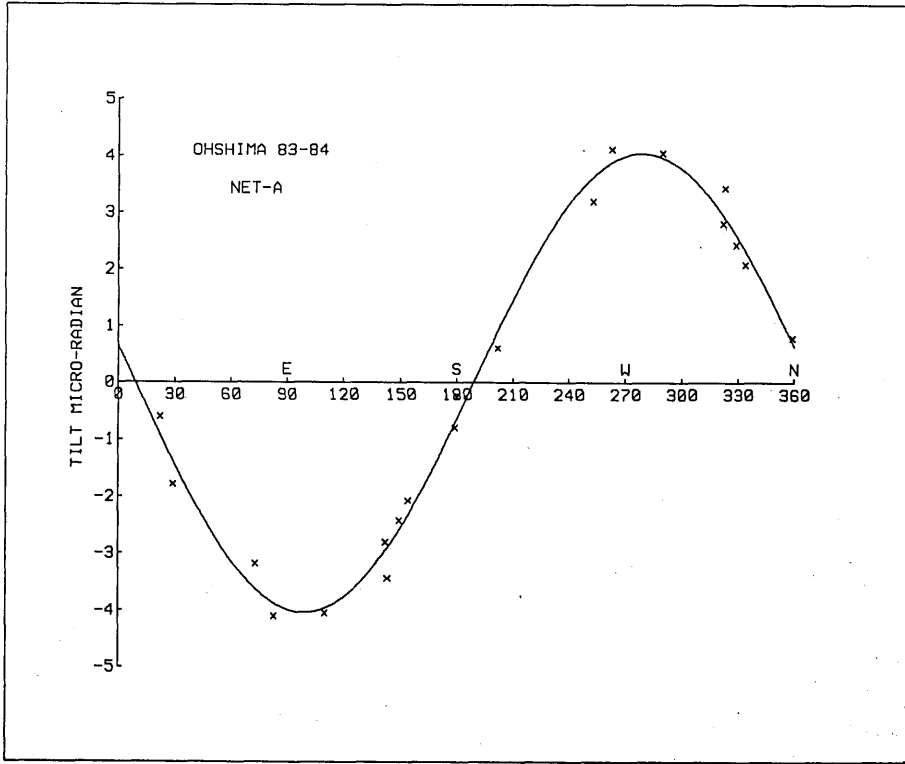
Fig.1 Tilt vs. azimuth (Net A, Jan. 1983 - Jan. 1984).

* Received Jul. 21, 1984

** 衣笠善博

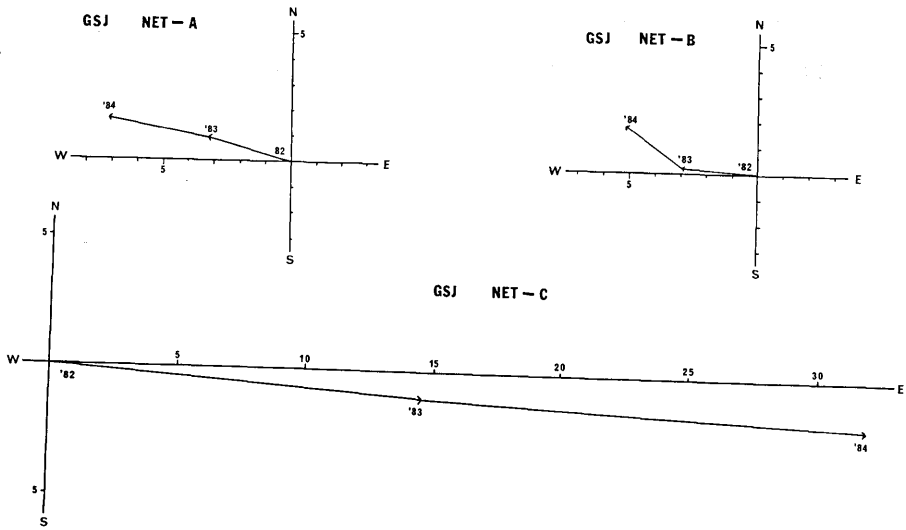
行った。第3図はその結果の傾斜ベクトル図である。

以上の観測・解析から大島火山における1983年～1984年の傾動方向は1982年～1983年とほぼ同様であり、傾動速度は観測網A及びCで約20%増加している事が指摘される。



第2図 方向別傾斜と最適サインカーブ(同)。水準点A2に係るデータは除外。

Fig.2 Tilt vs. azimuth and best fit sinusoidal curve (ditto).
Data relate to point A2 are excluded.



第3図 各観測網における傾斜ベクトル図(単位:マイクロラデアン)。
 Fig.3 Vector diagrams of tilt at three nets (unit:micro-radian).

文 献

- 1) 地質調査所 (1983) : 伊豆大島火山のドライティルト観測 (1983 - 1982), 火山噴火予知連絡会報, No.28, p. 39 - 41